

科 目 名	発達心理学特論		副題		
担 当 者	横尾 暁子				
開 講 期	前期	単位数	2 単位	配当年次	1 ・ 2 年次
授業の概要	人間の生涯にわたる発達・成長のなかで、人生初期はその基盤となる重要な時期であると考えられている。本授業では、主に乳幼児期・児童期の子どもの心理学的発達をテーマとして扱う。授業では、国内及び海外における研究成果として論文を紹介する。受講者は論文を読み概要をまとめた上で自分の考察や問題意識とともに発表し、それに基づいて討議を行う。				
授業のねらい ・到達目標	・発達心理学の最新の研究成果を学び、子どもの発達や子どもとの関わりについて深く思考し、子どもに対する多面的な理解を深める。 ・子どもの生涯の発達を見通し支えるために、発達心理学の研究成果を実践の場で応用する力を身につける。				
授業の方法・授業計画					
1	ガイダンス				
2	心理学の研究法（実験、観察、調査、事例研究）				
3	研究計画と心理統計				
4	発達の基盤-遺伝と環境				
5	愛着の発達				
6	認知発達-表象の発達と概念の発達-				
7	認知発達-言語発達と社会的認知の発達-				
8	自己認知の発達				
9	道徳性と向社会的行動の発達				
10	問題解決行動の発達				
11	仲間関係の発達				
12	親子関係の発達-養育態度と発達-				
13	食行動の発達				
14	保育者と子どもの関係				
15	振り返りとまとめ				
期末					
授業に関する 連 絡	本授業は内容に応じて、講義と演習の両形式で行う。 演習は、発表と討議を予定しており、履修生に資料作成の担当を課す。				
評価方法 及び評価基準	授業内での発表および討議（50%）、課題の提出（50%）に基づいて評価する。				
事前・事後 学習の内容	事前：各回の授業のテーマについて、関連する基礎的な知識を確認し、自分の考えをまとめておくこと。また、配布資料や指定の文献等はよく読んでおくこと。発表担当の場合は、資料を準備すること。 事後：各回の学習内容を整理して、学期末の課題作成の準備につなげること。各自の問いや疑問点についてはさらに調べるなどして、学びを自ら深めていくことが望ましい。				
履修上の注意	履修生の積極的な参加を求める。				
テキスト	特に使用せず。				
参考文献	杉村伸一郎・坂田陽子 『実験で学ぶ発達心理学』ナカニシヤ出版 2004 渡辺弥生・伊藤順子・杉村伸一郎 『原著で学ぶ社会性の発達』ナカニシヤ出版 2008 山口真美・金沢創編著 『心理学研究法4 発達』 誠信書房 2011				